

開館の目的は伝建地区へ来て頂いた来訪者への接待だとのことでした。

男女合わせて約30名の皆さんがボランティアで週1回のシフトで続けていると聞いてすごいなと思いました。毎週出ること、まして女性の方々は家事との両立は大変なことです。

来訪者との出会い、お話しをすることが楽しみと語ってくれましたが、その中でも湯浅に来て頂いた来訪者への“おもてなし”の心を一番大事にしているのが良くわかりました。

“おもてなし”の一番の心遣いは湯浅に来て良かったと思ってもらえるようにと語ってくれたのが心に残りました。

【道津】

銭湯跡歴史資料館 甚風呂

懐かしい銭湯のスタイルが来訪者に大人気の『甚風呂』は、今年度から『湯浅伝建地区保存協議会（木下智之会長）』が指定管理者となり、以前同様、公開活用しています。

交流館も甚風呂も来訪者のためだけの施設ではありません。住民自らが運営に携わることで、住民が主役の活力あるまちづくりが実現されます。皆さんもぜひ一度訪れてみてください。

■場 所：湯浅428番地

■開館時間：10時～16時（平日は正午から13時までお休み）

■休 館 日：水曜日（水曜日が祝日の場合は翌日木曜日）及び年末年始



お知らせ

保存協議会メール開通 ★ご意見をお寄せください
✉denken-yuasa@zeus.eonet.ne.jp

保存協議会ホームページ移転およびブログ開設

■ホームページ <http://www.eonet.ne.jp/~denken-yuasa>

■ブ ロ グ <http://denken-yuasa.blog.eonet.jp>

甚風呂電話開通 ★懐かしい黒電話で承ります
☎0737-20-2033

湯浅伝建地区保存協議会

まちなみ瓦版に皆様のご要望などを掲載していきたいと思えます。ご意見・ご要望などございましたら、保存協議会委員まで連絡をお願いします。

■ホームページ <http://www.eonet.ne.jp/~denken-yuasa>

編集委員

楠山 吉雄
半邊 宗五
妻木 禎子
道津 節子
齋藤 春太郎

まちなみ瓦版

■平成26年7月1日

■第23号

■発行：湯浅伝建地区保存協議会

■発行責任者：木下 智之

湯浅まちなみ交流館

地元住民や元所有者の「まちづくりに役立ててほしい」との思いと取り組みに町行政が応え、空き家となっていた伝統的な建物が生まれ変わりました。

平成25年度に文化庁の『文化財建造物等活用地域活性化事業』により、屋根の葺き替え、外壁の土塗り仕上げや赤いベンガラ格子の修繕、板塀の新設など外観が修理され、同時にトイレなどの水まわりや内装、設備も一新されました。



【改修前】



【改修後】

■構 造 等：木造平屋建瓦葺

■総事業費：1,483万9千円

（うち国庫補助金701万5千円）

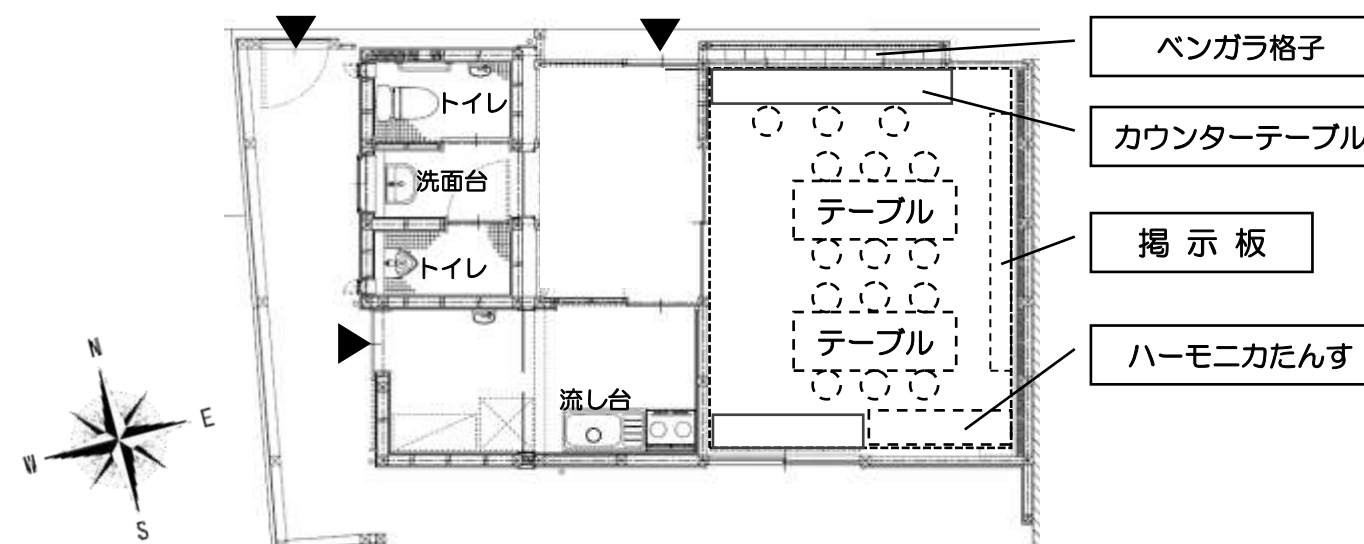
今年度から「北浜町街づくり委員会（油谷太一会長）」が指定管理者となり温かい“おもてなし”で来訪者をお迎えしています。交流館は住民と来訪者の交流の場となり、伝建地区の新たな拠点として活躍しています。

■場 所：湯浅444番地（甚風呂南向かい）

■開館時間：9時30分～16時30分

■休 館 日：水・木曜日及び年末年始

【交流館 平面図】



スタッフのみなさんに“おもてなし”について聞きました

Q 始めたきっかけは何ですか？

A 近年、来訪者が多くなったことを受け、現在の交流館横の駐車場を借り、そこにテントを張って、土・日曜日にお茶の接待を行ったのが始まりです。今回、皆様のご協力により立派な交流館が完成し、年中を通して運営できるようになりました。

Q 交流館の運営はどのようにしているのですか？

A 北浜町街づくり委員会の約30名がボランティアで運営しています。

Q 心がけていることはありますか？

A 館内での“おもてなし”は女性に任せ、男性は案内、誘導に心がけています。来訪者の方々には気楽に立ち寄ってもらい「湯浅にまた来たい」と思ってもらえるように取り組んでいます。わずかな物産も販売していますが、来訪者の方々が一息つける空間造りを大切にしています。

Q 運営するにあたり難しいことはどのようなことですか？

A 以前、テントで運営していたときは、開放感があったので来訪者も気軽に立ち寄ってもらえましたが、建物内となると入るのに戸惑う方もいるので、立ち寄りやすい環境を造ることです。

また、主婦や仕事をしている方々がほとんどなので、運営体制が難しいです。手伝える日に交代で参加してもらっているので、皆さんの理解が不可欠です。

Q 楽しいこと、良かったことは何ですか？

A 来訪者の皆さんに湯浅町の良さと素晴らしさを知っていただき、意見を交換できることが楽しいです。それと住民同士で交流できるのが良いことです。

Q 来訪者の方によく質問されることはありますか？

A 向かいにある甚風呂のことをよく聞かれます。営業をしていた当時の思い出を話すと来訪者の方々も興味深く聞いてくれます。

Q 来訪者のご意見・感想を書いていただくノートがありますが、お客様の反応はどうですか？

A 地元の方々に“おもてなし”を受けて「ほっとする」という感想が多いです。こちらにとってはとてもうれしい言葉です。
最近、外国からの来訪者も多くなり、とても楽しんでいかれます。



質問に答えてくれた
北浜町街づくり委員会の皆さん



次ページへ続く

Q お客様の感想の中で参考になること、感じたことはどんなことですか？

A 湯浅をあまり知らないお客様が多いので、歴史・文化があることなど、湯浅の素晴らしいところを初めて知ったと話を良く聞きます。この地に住む皆さんは特別に感じませんが観光客は素晴らしいと感じているようです。

Q 今後、運営を続けていくにはどのようなことが必要ですか？

A 委員会は年配の方が多く、この後、若い世代の力が必要です。これから若い世代にも入ってもらい盛り上げていきたいです。

来訪者の感想の一部をご紹介します

- ◆ 和歌山にこんな美しいところが残っていることに感動、暖かい対応に感謝です。
- ◆ 同じみかんで有名な愛媛から来ました。何か身内のような気分になりました。
- ◆ 湯浅弁が非常に楽しかったです。古い町並みがすごくいい雰囲気でした。
- ◆ ナビで調べて来ましたが、駐車場の位置がわからなかったのが苦労しました。
- ◆ ボランティアの方々の笑顔が素敵です。
- ◆ 暑い日にいただいた冷たいお茶が最高でした。
- ◆ 人に優しい町ですね。皆さんの努力がうかがわれ感心いたしました。

などなど、たくさんの声が寄せられていました😊



まちなみ瓦版編集委員が交流館取材して

見違えるように修復された「交流館」にとっても落ち着きを感じました。

以前、遠くから訪れてくれた青年（全国の古い町並みをよく歩いているという）が、湯浅の町並みを「そこに住んでいる人々の暮らしが息づいているところが魅力的」との感想を言ってくれました。その青年の言葉を思いだしながら、ほっとしたひとときになりました。

ボランティアの方達のご苦労あってのことだと思います。それと同時にここに住んでいる私たちの「暮らし」を大切にしたいと改めて思いました。【／妻木】

来訪者の方々は本当に“おもてなし”の気持ちでお迎えしていただいて、とても癒しを感じたと言っておられます。このような取り組みで次につながる何かが必ず生まれ、観光の“おもてなし”模範となるような感じがしました。【／半邊】

次ページへ続く